

美濃加茂市未来のまちづくり委員会（第9回）議事録

1. 日時：令和元年9月13日（金） 午後7時00分～9時00分

2. 場所：美濃加茂市生涯学習センター 201号室

3. 出席者（順不同）：

（1）委員：

海道会長、渡邊副会長、須藤委員、原田委員、山田委員、鈴木委員
宮口委員、長谷川委員（9名中8名出席）

（2）業務委託先：

玉野総合コンサルタント株式会社3名

（3）市：

経営企画部長、企画課長、その他企画課2名
建設水道部対策監

4. 報告事項

事務局から、資料に基づき報告がされた。報告内容は、前回委員会の議事録、今後の委員会スケジュール、市長と語る会の報告、新庁舎の施設計画・まちづくり・事業手法についてである。

また、報告事項について以下の質疑があった。

【市長と語る会について】

・参加者は何名だったのか。

→（事務局回答）議員・市職員を含む総勢584名の参加があった。

・「商業ビル」「シティホテル」と意味合いが異なるため、言葉のすみ分けをする必要があるのではないか。

→会場の市民の方の発言の表現をそのまま使っている。

【資料3-1 P.33】

・職員数を370人として算定しているが、嘱託の方の人数は含んでいないのか。

→（事務局回答）嘱託の方の人数は含んでいるが、スポーツ振興課や生涯学習課、保育園保育士など現庁舎外で勤務している職員の人数は含んでいない。

5. 審議事項

資料3-1（美濃加茂市新庁舎整備基本計画（案）（施設計画・まちづくり））について審議を行った。委員から出された主な意見は以下のとおり。

（1）資料3-1 施設計画・まちづくりについて

事務局から、資料に基づき新庁舎整備基本計画（案）（施設計画・まちづくり）について説明があった。委員から出された主な意見は以下のとおり。

【防災（災害対策）】

・新丸山ダムの建設によって浸水被害が緩和されるという話を以前聞いたが、現時点ではどのように考えているのか。

→（事務局回答）以前にも木曾川浸水想定最大規模について説明しましたが、新丸山ダムの建設によって何らかの効果があると思われる。

・大きい庁舎として、全ての防災機能（災害対策本部機能・備蓄機能・避難所機能など）を一カ所にまとめる必要はない。住民の要望をもっと汲んでほしい。

→（事務局回答）説明会を重ねて、市民の意見を聞いていく。

・P. 38に記載の庁舎の全体規模として設定した8,800㎡は、防災機能の面積を含んでいないが、市民の関心が高いことを考慮して、防災機能を庁舎機能と分けるという可能性がある旨を市長と語る会で聞いたが、どのように考えているのか。

→（事務局回答）市長は、防災庁舎を別の場所に建設するという方法もあるというひとつの例を説明したが、文化の森など他の公共施設に防災機能を持たせるという方法もあると思う。

・防災機能は具体的にどのようなものを考えているのか。

→（事務局回答）情報収集・分析、避難・救助のための司令塔として必要な設備を整備する。通常は設置されず、会議室と兼用することで、面積を削減することを考えられる。

→（会長）災害後、復興時のためにも、行政機能が継続するために、市民が生活するまちの中に防災機能があることが望ましい。備蓄倉庫や避難場所も浸水被害のない場所に計画してほしい。

【駐車場】

・P. 41の駐車場台数は、現状を基に算出しているが、まちに開かれた庁舎にするのであれば現状の想定では難しいと考えられる。細長い駐車場では駐車しづらく、台数を確保するよりも、利便性を重視すべきでは。

→（事務局回答）にぎわい機能の利用者のためにも民間の駐車場の活用も検討していく。

→（会長）庁舎以外に用事のある人が利用しやすいよう民間と連携等十分な対応を行ってほしい。

【施設計画・まちづくり】

・P. 58において、C-2を基本方針とすると明記されているが、C-2にする決め手は何か。

→（事務局回答）駅前のロータリーをそのまま活用することによるコスト削減や駅北側からアクセスした場合の上下移動の少なさが理由として挙げられる。一方でC-1はロータリーの再計画が必要。

・ハード面を中心に施設計画が記載されているが、新庁舎の整備によって、実際にまちづくりとして、広場の使い方など全体の計画に対する庁舎整備との関係性など具体的にどのような効果、結果が得られるかというソフト面についてももう少し言及すべき。

→（事務局回答）P. 30の立地適正化計画に即したまちづくりを検討している。今後も実現

に向けて検討していきたい。

・市長と語る会で得られた市民の意見は、肯定的な意見がない。P. 69にあるにぎわい創出の例のようなことを実施することで、新たなまちづくりの起爆剤となるのか疑問に思う。商業機能はすぐ撤退するのでは。

→（会長）私自身としては、一定の変化を感じられると思う。新しい形で魅力あるまちになる可能性を感じられる。今後もぜひ積極的に検討して行ってほしい。

(2) 資料 3-2 事業手法について

【事業手法について】

・どこまで基本計画の段階で決定するのか気になる。コンベンションの運営リスクを整理する必要を感じる。庁舎機能とにぎわい機能のそれぞれの機能における所有と費用負担について、検討すべき。

→（事務局回答）どのような事業スキームが効果的なのか、今後も検討を重ねたい。

6. 今後の予定

次回開催日時の確認がされた。

委員会の開催日は令和元年11月15日（金）午後7時～9時 場所は生涯学習センター201号室

以上